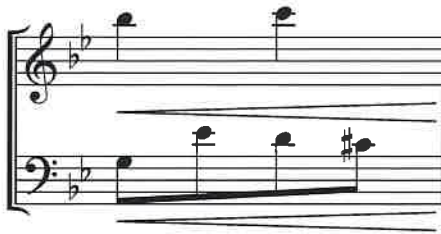




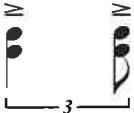


『TWO』寸評

- ・密度たかく展開されるアンサンブル
- ・つかずはなれずテンションをたもった音遣いに好感がもてる
- ・拍の分割をバラケさせつつ拍子感はうしなわれていない
- ・楽器の選択も適切
- ・発想標語とあわせ無機的なタイトルもよい

完成度をさらに上げるために

- ・ m.14 b.4 四分休符にフェルマータを置いてもおもしろいかも
- ・ m.11 b.3-4 もりあがりとともにどちらもシ♭→ドとおなじ音に向かうので、ここもあえてズラしたままにしてみる



- ・ m.2,4,15 b.1-2 チェロの四分音符はまとめられる 
- ・ m.6 b.3 チェロの記譜もまとめられる 
- ・ m.15 b.3 Vn. 四分音符でよい
- ・ m.16 b.4 四分音符にテヌートをつけたい
- ・ m.12 b.1,3  たとえばアーティキュレーションで音楽内容を強調
- ・ m.1-4,6 Vn.  どのかたちにもスラーがつけられそう
- ・ m.16 b.1,3 Vn.  たとえばm.12の残照としてアーティキュレーションをつけてみる

よく手に入った音の探究、すてきです。

持麿 勉